

○滿洲黑山縣の棉花

滿洲で棉花栽培といふことが一つの國策になつてゐるが、新民府の南の方打通線の通ずる黑山縣地方はその好適地であるが、この縣全面積九十九萬畝のうち四萬六千五百畝の棉花適作地があるといつてゐたが實際五萬畝までつくつた、そこでこの適地の縣に大豆畑を棉花にしたら十萬畝の棉耕地が出来る、その耕作一天地についての比較左の如し。

收量	金額(元)
高粱	五〇斗 三〇、〇
大豆	三五斗 四五、五
實棉	八百斤 八〇、〇
生産費	二八、〇〇元
益	二、〇〇元
生産費	三三、五元
益	一二、〇〇元
生産費	四五、〇〇元
益	三五、〇〇元

といふのであるから棉花に轉向するであらう。本年は一天地平均約八八五斤の實棉が出来、一斤一角にうれ繰綿は四角にうれた、そこで縣下に墨山、新立屯、大虎山の三つの滿洲棉花株式會社が新設され十月二十日迄に大虎山は收買十萬斤に上つた、猶黑山縣大虎山に德記棉花舖があつて繰綿九千斤をつくつたが、近く滿洲棉花株式會社の繰綿工場が出来る筈である。

○日本綠茶と外人の嗜好
アレキサンドリヤの一旅節

の給仕長よりの報告によれば
一、日本綠茶は之をロシヤ式即牛乳をいれザシトロン及砂糖(時にラム酒)を用ひて飲む時は美味を呈し一般に賞味せらるゝものゝ如く見受けたり。

二、朝食の際牛乳を交へて與へたるが好みたるもの殆どなし
三、ある一家族は屢々日本綠茶を求めたるが、之疲勞を醫する藥代用にして、就寢前又はトランプの際にコーヒに代へてのみたり。

四、蜂蜜を交へ、且あつくして子供に與へたるに大に喜びたり、尙風邪の際に之を用ひて有效なり。
五、英國人はいかなる方法を以てするも好まず、佛國人は之を醫藥として喜んで飲みたり。

六、埃及人は牛乳を用ひず、砂糖を多分にいれて飲み依つてもし價格を低廉ならしめ宣傳に努力せばアラビヤ人間に廣く傳播普及すること困難ならざるべし。
七、綠茶も烟草と同様に馴れなくてはならぬから綠茶の有する特殊の味にも馴れる迄に相當の日がかゝるならん。

八、綠茶にも考究すべき點多し、色と香の二點なり第一綠茶の色は支那茶、セイロン茶の如く翠味を呈せざることが外人の嗜好に適せず、牛乳をませた色は特に快感を與へざる也。

香も亦紅茶類の如く強からざるは缺點なり、蓋し茶は強き香氣あることを以て第一要素とす。

以上は我國から送つた見本について、試用した報告であるが送つた緑茶も悪るかつたのではあらうが、日本人が飲む方法では外人には味がわかりこほないと見える。

○支那人の比島に於ける營業振

ヒリツピンでは比島人が小賣店を始めてもすべて失敗して屹度支那人の小賣店にまけてしまふ、同じ店を比島人の小賣の向側に支那人が出したら、一週間たぬまに比島人は閉店する、これは全く支那の華僑の商賣上手である、比島人は氣が荒く賣子を悪罵する、女が來て小供をつかまへて、「オイ肥つちよ、酢を一仙かうよ序に葱と燐寸、二三本と胡椒を少しまける」などいふが支那人は笑つて之に品物を與へるけれども、比島人は怒つてしまふ、支那人の店に立つて、「オイチンク（輕蔑の呼方）烟草一本よこせ、早くだ」といつても別に氣にかけないで僅か一本のタバコをうる。

第二に支那人は飲食又は安樂生活の時機を知る、儲けうる金高で生活をきめるから、商賣をはじめた時は粥一椀と魚の干物で満足し、商賣が繁昌するまでは食事を豊かにしない忍耐がある。

第三に支那人は日々の仕入に天秤棒で自から市場に出入する、これは高々二三十仙の節約であるが比島人は馬車をやつて市場に出かけ之を營業費にかける、支那の商人は決してさうしたことをしない、比島人は商賣が繁昌しだすと直に好い氣になつて傲慢となり、賣子にそさうをすると、どなりつ

けるのであるが支那人はさうしたことをしない。比島人は賣物をねぎられるとすぐ怒るが、支那人はねぎられても怒らないで、平氣で掛引をする、その上に長い間に借入貸をして、得意が拂ひ得ない時には一部の入金で我慢してつぎの月にとりたてる。

さうした次第で支那人は比島での小賣店を全く獨占してゐる、大連でも日本人の小賣商店は、いつのまにか支那商店にまけてしまふ。

日本人も比島人と同じやうな缺陷をもつてゐる悪衣悪食して蓄藏するといふ支那人の生活には大に學ぶべきものがあるであらう。

○サンチバルと日本

アフリカの狭いサンチバルに對しては印度が貿易額で第一位二五%、英國は一四%、タンガニイカ九・五%、閩領東印度九・四%、伊太利六%、佛國五・六%、米國五・二%、日本四・四%、オランダ三%、ケンヤ二%で日本は第八位を占むるにすぎない、しかし日本からの輸入百六萬留比、輸出三萬ルーピだから百萬ルーピの支拂勘定である有利な市場である。日本品として綿布、人絹、絹織物、衣服、洋灰、陶磁器、靴、シングレット、燐寸等で主として輕工業生産品である。日本への輸出品は丁香、丁香莖、象牙の類であるが、この地の丁香は世界産額の九〇%、同領唯一の産業で、其耕地面積はサンパデル島二萬英町、ペムパ島四萬英町に達し十六萬二千畝を輸出した、この價六百五十萬ルーピである、日本へは二

萬ルビー内外を送つた。丁香につぐものはコアラ二百萬留比にすぎない。日本からの輸入は價格で減じたが數量は増加し綿布、絹物等の外に自動車タイヤ、チューブ等も本年始めて輸入され佛國品と競争した、主として安價といふ武器で進出日本の綿布類の量は五六%に達し印度二四%、英國二〇%で遙に有力となつてゐる。生地綿布第一、晒綿布これにつき擦染綿布は獨占的であるが友染綿布は印度品にまけてゐる。絹や人絹類は九二%をしめ從來の英伊の人絹を驅逐した。セメントも英國の官憲の努力があつたけれども日英兩國の間に著しき値開があつたので一般市場は完全に日本品に奪はれた、しかし競争上必要以下に安價であつて、英品一樽八留七十五仙に對し日本品は五留七十五仙だといはれてゐる。これらは少しく加減して高價でうる方がよいのではないかと考へさせられる。

○獨逸アルミニウム工業

は世界大戰當時必要に迫られて勃興したる新工業にして電力が高價なりし間は採算引き合はざりしが其後電力工業と共に發達したり、アルミニウム一噸をつくるに電力約二萬五千キロワット時を要す。亜鉛ならば四千キロワット時、銅ならば七百五十キロワット時であるからアルミは比較にならぬ程電力を消費する。原料は廉い水礬工礦で外國より輸入する。戦後ドイツのアルミニウム工業は發達いちじるしく米國につき世界第二位である。千九百三十二年に米國は四七・六(千噸)なるに獨逸は一九、カナ

ダは一八、ノルウェーは一七・八、佛國一五、伊太利は一三・四英國は一〇・三、瑞西は八・五といふ産額をしめた。しかしアルミニウムは露國又は日本で自給策を講じ始めたので、一九三二年は各國共に生産制限を加へたのであつた。さうしてアルミニウム・カルテルが販賣統制をやつたから價格は急激に變化してゐない。用途は自動車、飛行機工業、家庭用品、絶縁體、放熱器、鐵道材料等であるが近來テヨコレイト及烟草包装用としてアルミニウム箔が益々盛に用ひられ、錫箔を壓迫してゐる。

○文檢地理科本試験問題 (八年十二月十二日施行)

筆 答 試 験

- 一、政治地理的見地より日滿兩國の調和につきて説明せよ。
- 二、越後平野と富山平野との地域性を比較せよ。
- 三、ニューギニアの地形を平面圖及び断面圖によりて説明せよ。
- 四、パラグアイ國の地誌を述べよ。
- 五、ヨーロッパに於ける主要航空路を圖示してこれを説明せよ。(以上四時間)

口 述 試 験 (八年十二月、十四、十五日)

- 第一室 世界地圖を示し、日本人の主要海外發展地及び其の情況に就きて説明せしむ。
- 第二室 生糸、棉花、羊毛、人造絹糸の標本を示してこれを鑑定せしめそれらの本邦に於ける生産及び消費について

説明せしむ。

第三室 マウントレーニアの地形圖により、開析火山の水蝕地形に就き説明せしめ併せて米國國立公園の主なるものにつき其地理的特性を述べしむ。

第四室 五萬分一地形鹽原圖幅を示して、那須野の地域性を讀圖せしめ、且箒川蛇尾川上流の谷を對比しつゝ説明せしむ。

第五室 五萬分一の地形三木本圖幅を示して奥羽地方の牧畜業につき其地理的意義を説明せしめ併せて三木本町發達の事情を述べしむ。(以上十四日)

教授(十五日)、ユーラシヤ大陸の掛圖を使用してソヴイエツト聯邦の農業につきて教授せしむ。以上

○口之永良部島破裂の模様

口之永良部島は舊臘十二月二十四日破裂したが其の後同月三十一日及一月十一日にも破裂した。茲に本間不二男氏からの通信を掲げて其の模様を報導する。

「前略口之永良火山調査は無事繼續して居りますから御安心下さい。去る七日松本唯一教授も調査に來られ心強く感じて居る次第であります。昭和九年一月十一日午后四時十四分より十八分に亘り口之永良部火山に於ける最大の爆發あり、松本氏と小生とは人夫をつれて丁度抛出物の落下する直下であり九死に一生を得た譯であります。全島本村

にてはテツキリ我等が死屍となつて發見されるものと思ひ本村全青年團を出動せしめたるよしにて、先發隊三名は一時間半の後北東海岸の我等の宿泊地に到達し我等の安否を尋ねてくれました。東方海上十三軒なる屋久島には豆粒大以上の岩片を降らし次いで口永良部島各所に山火事を發した。め口永良部全滅の疑念を生じ屋久島より巡查部長。助役其の他六七名の出動を見たるなど只今も大騒動であります。爆發の後噴煙は以前よりも稍多量にして且つ多少黒色を帯ぶるものあり近く噴火以前の狀態に鎮靜することがない様であります。但し差しあたり危険も感ぜられませんか。豫定の如く調査はつゞける氣で居ります」(一月十三日)

「拜啓此の度口永良部爆發について大變御心配をおかけいたしましたし恐縮に存じます。當日は丁度新岳南噴火口壁より古岳爆發火口に至り七釜を経て北方一軒ばかりの所に於て爆發にあつたのでした。松の幹に身をひそめて爆發の止むのを待ちました。活動はゴゴゴといふ地鳴から始まり次いで大爆發が起りその後四回程爆發あり、第三回の爆發に先立つて落石が始りました。當日の滯在豫定地湯向部落について間もなく湯向部落より青年團の訪問をうけ後に三十六名の青年團の出動したことを知り非常に有難く感じた次第でした。山は目下靜かに白煙をあげてゐます。本日天氣晴朗舟が出るさうで急ぎ御一報申上ます」(一月十五日)